

原始の火起こし

職員による指導可

山形市少年自然の家

1. 活動概要

原始の火起こしを体験することにより、先人の知恵や思いを感じることができます。また、協力することやねばり強くやり抜くことの大切さを知ることともに、火の大切さを感じるきっかけにもなるでしょう。さらに、この火を種火にして、炊飯活動やキャンプファイヤー等に利用することも考えられます。

ねらい：息を合わせないと着火しないため、協力するよさを学ぶ。

2. 活動場所 体育館・ピロティ・屋根付き広場・ガレージ

3. 所要時間 2時間程度

4. 準備 《自然の家》 発火板・火きり棒・ロウソク・火つけ紙・ひも・工作板・ハンドピース
固定板・のこぎり・小刀・彫刻刀・ランタン・バケツ

《各自》 軍手

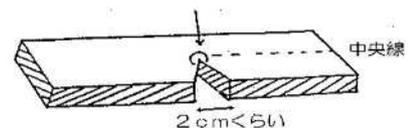
5. 費用 170円（1セット）

6. 活動内容

① 火きり棒と発火板を作ります。 試験管の底→  ←クレヨンの先

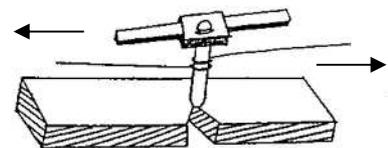
火きり棒……小刀で削ります。両端を試験管の底、新しいクレヨンの先の様にします。
発火板……のこぎりでV字を作り、彫刻刀で中央に切れ込みを入れます。

※切れ込みと火きり棒が合うように削ります。



② 工作板の上で火起こしをする。

発火板を足で固定します。次に火きり棒にハンドピースを被せ固定板で押さええます。
ひもを1～2巻きして両端を引き合います。



・火きり棒を押さえる人は、押し加減を調整します。
→良く回転し、摩擦力が増すように。

・ひもを引く人は、長時間とぎれず回転を与えられるように大きく引きます。→初めはゆっくり。

③ こげ茶色の木の粉が発火板のV字の間に十分たまるまで待ち、たまったら引くスピードを速めます。

④ こげ茶色の木の粉から煙が出たら作業を止め、粉を動かさないようにして発火板を離します。

⑤ 火種が見えたら静かに息を吹きかけ火種を大きくし、火付け紙に火を移しろうそくに火をともします。

★ 起こした火をランタンに移し、炊飯活動やキャンプファイヤーの火種として活用できます。

7. 実施上の留意点

- ・火傷や刃物の使用に十分注意しましょう。（摩擦でハンドピースはとても熱くなるので素手で触らない）
- ・火のついたロウソクは工作板の上に置きます。溶けたロウを床に落とさないでください。